

専門学校 ベルランド看護助産大学校 学校誌 **奏**

Kanade

VOL.05
2023

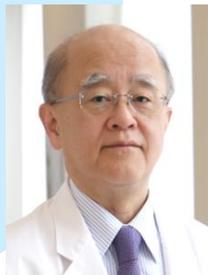
特集1 **新カリキュラムスタート**

特集2 **研究してます。**

法人が望む人材と 看護基礎教育への期待

社会医療法人 生長会
社会福祉法人 悠人会

理事長 亀山 雅男



過去3年にわたって世界を翻弄してきた新型コロナウイルス感染（COVID19）も、ワクチンや罹患によって抗体を獲得したことにより重症化率や死亡率が低下してきています。これを受けて今年の5月8日には、季節性インフルエンザなど同じ「5類」に移行する方針が決定されました。こうした背景から、いままで十分にできなかった学生の実習も本来のペースに戻るのではと期待しております。

私たち生長会グループの教育施設である看護学校は、2018年4月から「ベルランド看護助産大学校」に生まれ変わり、高度専門

士を養成する4年間の看護教育とすることで実践力の高い学生を育成しようと考えています。昨年の春には、4年制となってから初めての卒業生を輩出しました。さらに、昨年から“新カリキュラム”も開始して、自立・自律の精神をもって患者さんやご家族に寄り添った看護を提供し、安全・安心に満ちた質の高い医療・介護を享受していただける環境を実現すると確信しています。特に、今年はその中でも海外渡航がやっと可能になったこともあり、希望者ではありますがアメリカへの短期見学を企画しており、これからの看護師には広い視野と見識を身につけて欲しいものです。

コロナ禍は完全には収束していませんが、今後とも生長会・悠人会の各施設は「愛の医療と福祉の実現」をモットーに、地域の医療・介護を支えつつ社会貢献して参りたいと考えています。引き続き、関係者の方々の御支援を頂きますようお願い致します。

就任のご挨拶

専門学校 ベルランド看護助産大学校

学校長 戸田 爲久



私は、長年学校長としてベルランド看護助産大学校を率いてこられました大島利夫先生の後を引き継いで、このたび学校長に就任いたしました。これからも、大島先生に引き続き本校の教育理念である「人間愛を基盤とし、健康な心身・科学する心を持ち合わせた看護の実践者を育成する」に則って学校運営に努め、教職員一同とともに学生の育成に努めていきたいと考えております。今後もこれまでと同様皆様のご支援とご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

また、本校の教育においては、コロナ禍の3年間は新型コロナウイルス感染症の拡大に対応するべくワクチン接種やマスク着用などの感染対策に努め、オンラインでの授業などを増やすことで対応してまいり

ました。学生の皆さんはコロナ禍の3年間では、学習や実習の際に他者とのコミュニケーションに制約があることで戸惑いを感じることもあったと思います。そして、マスクやシールド越しで表情が十分に捉えられず、時間の制約もあるなかでの実習には一層の苦勞があったことと思います。そして、1年生の中にはマスク越しの生活が当たり前の高校生活を送り、卒業式まで素顔を知らない同級生がいたかもしれません。今年5/8で新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類へと扱いが変わり、コロナ禍からポストコロナへと日常生活も大きく変化していくことと思います。

しかし、日常生活は3年前のコロナ前にもどるわけではなく、新しい日常（new normal）と呼ばれる時代になり、新型コロナウイルスが消滅することもなく、さらに今後新たな感染症が出現する可能性もあるなかで感染に対する耐性を高めた生活が要求されます。新しい生活様式が求められる中、学生の皆さんは医療職を目指しているわけですので、今から医療職としての自覚をもって学生生活を送ってほしいと考えています。

新カリキュラムへの挑戦 ヘルスプロモーションの視点

専門学校 ベルランド看護助産大学校
副学校長 濱田 眞由美



令和4年度4月から実施された新カリキュラムは、約2年間の準備のうえ構築されたものです。社会における保健・医療・福祉の動向および学校の現状を踏まえて、どのようなカリキュラムを構築するか検討を重ねてきました。看護師・助産師になる教育課程においては、知識・判断力・実践力を身につけなければならない膨大な学修量でありながら、それにかける時間は限られており、科目として選定された内容を教授することが中心となってしまいます。しかし、実際に対象者の生活・健康を支援するためには、これら学修したことを構造的に時系列に繋げていく能力や

体験が不可欠だと思います。

トータルヘルスケアを実現できる本法人の強みを活かしたカリキュラムは本校にしかできないものであると考え、あらゆる場で生活するあらゆる対象が、どのような健康状態であっても自らの健康の社会的決定要因をコントロールし、またその支援を行いながらその人らしくQOLを高めていくヘルスプロモーションの考え方を学生の頃から学んでほしいという願いで始まりました。今までのカリキュラムで「人の一生を知る」「生活する人を知る」「地域を知る」を教育内容の基盤とし、専門性を高めた内容を組み込んできた本校の教育に、看護領域を横断し繋ぐ教育内容を付加し、さらにハイリスクや臨床判断能力など高度な知識と実践を追究できる自律性の高い看護職育成へのチャレンジです。

学生だけでなく、領域を横断して教授していく私たち自身も「ヘルスプロモーション」について追究していきたいと思いますので、新カリキュラムの教育実践を見守りつつ、御支援いただけますようお願いいたします。

専門学校 ベルランド看護助産大学校
高度専門看護学科
学科長 西岡 万知子



令和4年度入学生から導入された新カリキュラムは、「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」及び「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」に則りながらも、画一的ではない、地域性や学校の設立趣旨、理念などを十分反映した柔軟なカリキュラム編成が可能となりました。本法人は『愛の医療と福祉の実現』を理念とし、トータルヘルスケア体制が構築されています。この点を生かし、あらゆる世代、あらゆる場において、その人なりの健康づくりが支援できるよう、ヘルスプロモーションを軸にカリキュラムを構築しました。

新カリキュラム1年目であった2022年度は、ヘルスプロモーションについて知り、考える機会となるような科目『ヘルスプロモーション基盤』や、“人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし改善する過程”を支えられるよう、日々の具体的な生活に焦点をあて思考できるような『地域包括ケア1』という科目を実践しました。また、生活の場を“その人が存在する全ての場が生活の場である”という視点から、入院中の対象の環境や看護の役割を知る『病院見学演習（2023年度は実習）』も実践しました。2年目となる2023年度は、健康の増進や予防、病気の回避、病気への対処といったあらゆる保健行動を支援できる看護師育成を目指した科目を構築しています。

生活者である人々がその人なりの健康を維持し、望む生活が営めるよう、その人の価値観・健康観に思いを寄せ、看護を考える医療者へと成長してくれることを願っています。

専門学校 ベルランド看護助産大学校
助産学科 学科長 門雀 由加子



助産学科は2023年度に32回生を迎えます。この32年の間にも、社会が求める助産師の役割は変化してきました。加速する少子高齢化、ハイリスク妊産褥婦の増加、高度化する周産期医療、子育て環境の変化などから、助産師が専門性を発揮して活動するべき場は多様となっています。これからの社会で活躍するには、社会の変化や動向を捉え、社会のニーズに対応できる広い視野と創造性を持ち、主体的な活動ができる行動力がより一層必要となってきます。

助産学科には、「助産師になりたい」という志高い学生が入学してきます。真面目で、目標に向かって懸命に取り組めます。そのような学生達が、助産実践に必要な基礎的な知識とスキルを身につけ、エビデンスに基づいたケア提供ができる能力を習得することはもちろんですが、社会がどのように変化しても、その変化に柔軟に対応し、女性とその家族のために専門性を発揮できる強くたくましい助産師を育成することが私たち教員の責務です。

時代に応じたカリキュラムの運用と充実した実習施設での恵まれた実習環境のなかで、学生たちは専門職として主体的に行動できる実践力を身につけ、1年間で更に大きく躍進します。

私たち教員も自己研鑽を怠らず、学生と共に成長し続ける存在であるように努めていきます。

関係者の皆さま、今後ともご支援いただけますようお願いいたします。

特集1

新カリキュラム スタート

新カリキュラムとは…

カリキュラム(教育課程)とは「学習者が教育目標を達成できるように、学習内容を吟味し、順序性を考慮した学校全体の教育計画」¹⁾です。

カリキュラムは、時代によって変化する社会的背景に応じられる看護師・助産師を育成するために、定期的な見直しが行われています。

2020年、カリキュラムの基準となる「保健師助産師看護師学校養成指定規則」と「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」の改正が行われました。

それを受けて、各養成所が既存のカリキュラムを見直し新たに編成したものが「新カリキュラム」です。

2022年度の入学生(本校では高度専門看護学科5回生・助産学科31回生)より適用されています。

引用文献

1)日本看護学校協議会。「看護師等養成所におけるカリキュラム改正支援事業」カリキュラム編成ガイドライン&地域・在宅看護論の教育内容. 2020. p8.

http://www.nihonkango.org/report/pdf/report_200603.pdf
(参照 2023.5)

改正における
社会的背景
キーワード

少子化
高齢化

疾病構造の
変化

情報通信技術
(ICT)の進化

地域包括ケア
推進

地域医療
推進

働く場
||
医療機関
+
在宅 施設
多様な場所

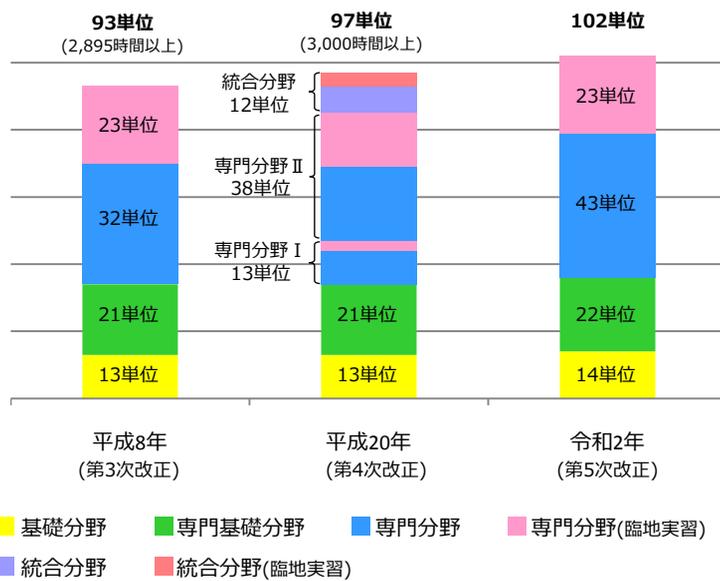
対象の多様性
複雑性に対応

多職種連携

看護師3年課程

教育内容の変遷
(第3次改正以降)

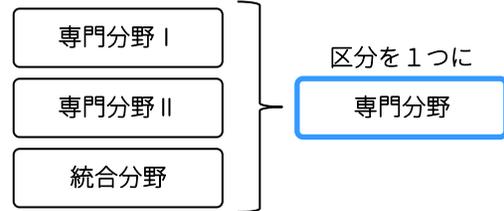
	看護の統合と実践	看護の統合と実践
在宅看護論	在宅看護論	地域・在宅看護論
精神看護学	精神看護学	精神看護学
老年看護学	老年看護学	老年看護学
母性看護学	母性看護学	母性看護学
小児看護学	小児看護学	小児看護学
成人看護学	成人看護学	成人看護学
基礎看護学	基礎看護学	基礎看護学



看護師3年課程
第5次改正の
ポイント

総単位数
97→102単位以上

コミュニケーション能力
臨床判断能力
ICTの活用
多様な場で生活する
人々への看護
を育成する分野
単位数増加



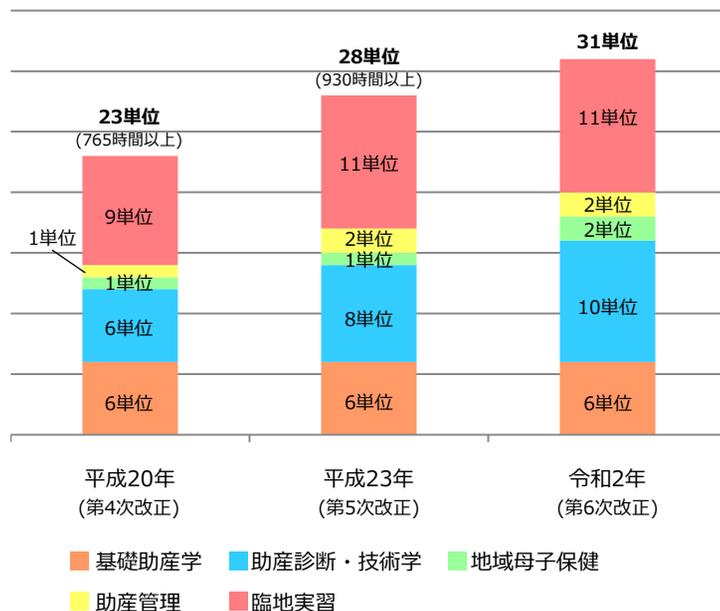
本校では、この分野の枠組みを領域横断させて、ヘルスプロモーション・保健行動区分の視点で組み直し、独自の分野を設定しました。詳しくはp.5の表へ

臨地実習
各養成所総単位数23単位のうち、6単位の教育内容を各養成所が自由に設定できる

本校では、病院や高齢者施設だけでなく、学校や企業、保健所、障害者施設などで学ぶ臨地実習が2023年度以降予定されています。

助産師課程

教育内容の変遷
(第4次改正以降)



助産師課程
第6次改正の
ポイント

総単位数
28→31単位以上

ハイリスク妊産婦への対応
正常分娩の判断や異常を予測する臨床判断能力
緊急時対応の実践能力

強化

助産診断・技術学
8→10単位

思春期から性成熟期、更年期にわたる女性の生涯の健康支援を行う「ウイメンズヘルスケア能力」が助産師に求められる実践能力と到達目標に表記

地域における子育て世代を包括的に支援する能力

強化

地域母子保健
1→2単位

高度専門看護学科

学科紹介

本学科は2018年、3年制の看護学科から、より質の高い看護実践能力を有し、保健・医療・福祉に貢献できる看護師を養成したいという考えのもと、修業年限を1年延長し、4年制の高度専門看護学科として新たに開設されました。

2022年3月に1回生が卒業し、2023年4月には6回生を迎えました。また、2022年度入学の5回生から新カリキュラム実施年度となっています。

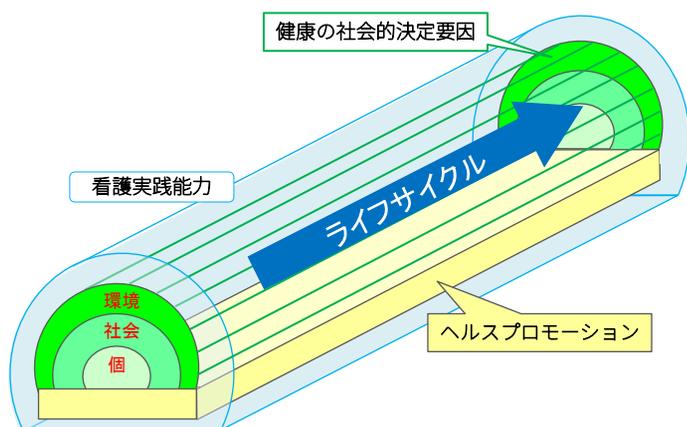


図1 人の一生の半円柱モデル（本校独自作成）

科目表（総単位数：143単位）

【分野】ヘルスプロモーションの基本となるもの	
内容	単位
人を知る	12
ヘルスプロモーションの基盤	6
ヘルスプロモーションを支える技術	10

【分野】ヘルスプロモーションの5つの活動		
内容	単位	
個人技術の開発	7	
地域活動の強化	6	
健康的な公共政策づくり	3	
健康を支援する環境づくり	8	
ヘルスサービスの方向転換	病とともに生きる	16
	健康増進・予防的保健行動	5
	病気回避行動	3
	病気対処行動	18
	最善の生を支える	3

【分野】キャリア支援	
内容	単位
キャリア支援	19

【分野】臨地実習	
内容	単位
臨地実習	27(2)

()は選択履修単位

本学科新カリキュラムの特徴

1. ヘルスプロモーションと教育課程

ヘルスプロモーションとは、「人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである」（2008年バンコク憲章）と定義されています。

本校ではヘルスプロモーションを「あらゆる場で生活する、あらゆる年代の個人・家族および集団（コミュニティ）を対象とし、その対象がどのような健康状態であっても自らの健康の社会的決定要因をコントロールし、その人らしく健康状態を維持・改善しQOLを高めていく過程」と捉えました。その過程を理解し、人の一生を支援できる基礎的能力を身につける看護師を育成することが、地域で生活する人々の暮らしを守るために保健・医療・福祉をつなぐ看護が実践できる看護師を輩出することに繋がると考え、カリキュラムを構築しました。

2. 人の一生を捉える

図1は、本校が独自に作成した、看護の対象者（個人）である人の一生を示した半円柱モデルです。

人は、連続的で流動的な健康状態にある身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面をもった統合体であり、多様な価値観をもっています。

あらゆる環境と相互作用し様々な経験を通して変化する健康状態に対し、必要とする程度の看護実践能力に支えられながら健康の社会的決定要因をコントロールし、生活することを表現しています。

3. 本校独自の教育分野

ライフサイクルの各ステージにある、あらゆる対象の、あらゆる健康状態や生活の特徴を統合的に理解し、看護実践につなげるために、カリキュラムの分野、領域を横断させ、本校独自の教育分野の内容に分類しました。

- (1) ヘルスプロモーションの基本となるもの
- (2) ヘルスプロモーションの5つの活動
- (3) キャリア支援

この3つの分野で教育課程構成図を構築しました。

人として、また看護専門職者としての基盤を育成し、キャリア発達を支援することと、本校が目指すディプロマポリシーに向けて看護実践能力を育成することを意図しています。

ディプロマポリシー…卒業認定・学位授与の方針。

学生が卒業する時に、身につけておくべき力を示したものの。

2022年度に行った 新カリキュラムでの特徴的な科目

ヘルスプロモーション基盤 1 (1年次前期)

ヘルスプロモーションの考え方、それを支える制度やヘルスプロモーション活動について学ぶ。また、看護の変遷や法律、教育の動向を学び、ヘルスプロモーションを支援する看護の機能や役割がわかる。人間・健康・看護の概念について理解し、健康活動の概要がわかる。人間を身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的側面を統合し、発達する存在としてわかる。

その人と共に健康について考え、支え、その人らしい暮らしを守るために看護ができることを考える基盤を作ります。

ヘルスプロモーション論 2-1 (1年次後期)

あらゆる対象別の健康の維持・増進と疾病予防のために必要な制度を理解し、人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようになるプロセスを支援する看護を学ぶ。

保健医療福祉に関連する制度を「ヘルスプロモーションを支える制度」という視点で学ぶことで、国民の健康状態や国の保健医療福祉動向の現状と関連付けて理解することができます。また、これらの知識をベースに、対象に必要な看護を考える力が身につきます。

情報リテラシー (1年次前期)

Society5.0の情報社会を生きるために、様々な情報を自己の目的に応じて必要なICTツールを活用し、受け手の情報を踏まえて、発信伝達するなど適切に情報を取り扱う能力を育成する。また、情報の性質をよく知った上で必要な情報を探し出し、理解し、活用できる能力とともに、情報モラルや情報セキュリティに対する意識を養う。

日常的にSNSに触れる世代だからこそ、正しいスキルを学び、倫理観を身につけ、看護を学ぶ初学者としての情報の活かし方、守り方を考える機会になるよう取り組んでいます。

地域包括ケア 1 (1年次後期)

地域包括システムの必要性の背景やしきみなどの基本的な知識をはじめ、システム構築に必要な多職種連携・継続看護について学び、ケアマネジメントを活用した医療機関と地域をつなぐ看護の役割について理解を深める。

人が「暮らす」こととは何か、「生活する」とは何かを学び、住み慣れた地域でその人らしく生活するために何が必要かを考えていきます。また、暮らしのフィールドである地域に目を向け、地域の独自性や地域がもつ課題を分析するために必要な知識を学びます。



2023年は新カリキュラムの2年目に入ります。
よりヘルスプロモーションを支えるために必要な学内の講義・演習に加えて、地域で健康を支える施設での実習が始まります！

助産学科

学科紹介

1992年、医療法人が設置主体の専門学校としては初となる助産学科が本校に併設されました。その後、1996年、2008年、2011年のカリキュラム改正を経て、今回の新カリキュラム改正となりました。初年度の2022年度は31回生が新たな講義や演習、実習に取り組みました。

助産学科 新カリキュラム概要

助産学科のカリキュラム構築の基本方針は、設置主体である社会医療法人生長会の会会である「ゆきとどく」から期待する卒業生像を「ゆきとどく助産ケアが提供できる」としました。

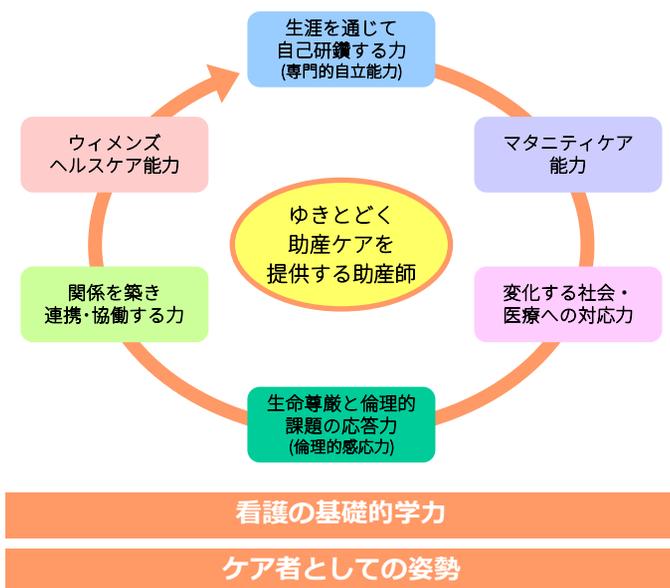
「ゆきとどく」は対象に対する細やかな配慮が行き渡っている状態で、診療・看護・介護といった部門ごとの縦割り捉える考え方ではなく、対象を中心に捉えた考え方です。

現在の妊産婦や社会情勢を踏まえ、ゆきとどく助産ケアを提供する能力を6つの力に分類し科目を構成しました。

助産学科1年の教育課程は、看護教育で培ってきた看護の基礎的学力と、専門職者としての姿勢が基盤にあって成り立ちます。

必要な6つの能力の修得に向けて、講義・演習・実習と授業形態や教育手法を変えながらサイクルを回し、「ゆきとどく助産ケアを提供する助産師」の育成をカリキュラムデザインで表現しました。

「ゆきとどく助産ケア」を提供するために必要な6つの能力



助産学科 新カリキュラムの特徴

本学科の新カリキュラムの特徴として、臨床判断能力・助産実践能力を育成するため、シミュレーション教育を中心とした3科目の構築と、多様な教育方法を取り入れました。

1. 助産実践の基盤(入学初期)

科目概要

助産診断技術学の概要を理解し、助産実践に必要な概念や基礎理論を学ぶ。助産技術の習得に向け、母性看護学技術と相談・教育の基本技術を確実に修得する。

過去の看護の経験を実際にリフレクションシートに記載し、ディスカッションする演習を実施しました。

自己の行った行動を客観的に振り返り、できた・できないではなく、ディスカッションを重ねるごとに深く洞察し、その時の自分の役割や行すべき行動を考えることができ、リフレクションの定義、意義、必要なスキルについて学びました。



2. 助産診断技術学実践 I (実習前)

科目概要

出生数の激減や、妊産婦や家族の意識の変化から助産学実習での経験が困難となり、多くを経験できない現状がある。また助産学生の実習は学生であっても母子に直接ケアする実践者として関わっていく。そのため実習で実践する助産技術が母子にとって安全安楽であり、的確な技術である保証が必要である。実習開始前に必要な基礎的な助産技術を習得し、対象や状況に合わせたケアについて学ぶ。

学生が実習で経験する「妊婦健康診査」と「産褥期の母子の健康診査」場面のシミュレーション演習を実施しました。対象の安全と安楽に配慮しながら、健康診査の基本的な手技・方法で情報を得て、経過診断、健康生活診断に基づいて報告できるまでを目標としました。しかし、関連付けて情報を収集することに時間を要し、報告までは難しかったです。

学生は、自己の手技に精一杯になることなく、五感を駆使して対象を捉える必要性や、対象の反応から判断し、必要なケアに繋げる必要性を学んでいました。また助産師の言動そのものがケアであるので、その表現の仕方、言葉選びによって対象に与える影響が異なることの気づきもありました。



デブリーフィング…振り返り

ファシリテーション…集団の活動を円滑に進められるように働きかけること

3. 助産診断技術学実践 II (実習後)

科目概要

ハイリスク妊産婦・新生児も増加し、周産期医療の高度化は加速している。そのため助産師は自己の役割と責務を自覚し、多職種と連携・協働することや高度な助産実践能力が求められる。臨地実習では主体的に実践できない分娩期の緊急の場面について学ぶ。母子の健康逸脱や異常予測、異常発生時の対応に関する知識を深め、シミュレーション演習を通し、健康を逸脱した母子や家族の支援に必要な臨床判断能力と助産実践力を育成する。

「緊急帝王切開」「常位胎盤早期剥離」「産科危機的出血」のシミュレーション演習を行いました。

学生はシミュレーション演習自体には慣れて、積極的に取り組んでいました。実習を経験したことで、知識レベルでの状況判断や必要なケアを考える力についてはついてきましたが、実際の行動に移すには、助言や振り返りが必要でした。

学生は対象とのコミュニケーションや医師への報告のスキルにおいて、自己成長できたことと評価していました。

よりよい授業を目指して

今後も臨床判断力・助産実践能力育成に向けたシミュレーション演習を継続していきます。よりよい授業を目指し、私たち教員も努力し続けます。

デブリーフィング・ファシリテーション能力を向上し、学生の気づきやディスカッションを促して学生の学習体験をより高めていきます。



学生のレディネスやニーズを把握し、リアルな教材、シナリオを作成していきます。演習のリアリティを高めるために演技力・表現力を磨いていきます。



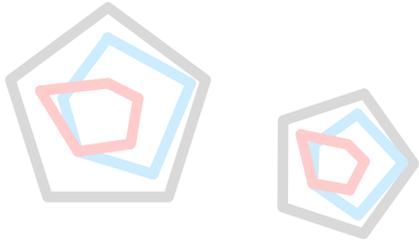
レディネス…学習のために必要な準備状態

特集2

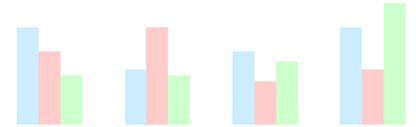
研究 しています。

看護職は「専門職」であるため、対象者につねによりよいケアを提供する必要があります。そのため、日々行うケアの質向上をはかっていくことが求められます。看護研究は、このケア実践の基礎となる科学的な知識体系を発展させていくために必須です。

看護師・助産師を目指す学生が、カリキュラムの中で研究活動を行うことは、将来、看護研究に取り組むためのスキルとして必要です。



高度専門看護学科



看護研究

2022年度は、4年生（2回生）が「キャリア選択Ⅰ（テーマ別実習）」と連動させて「看護研究」に取り組みました。

両者を連動させた学習とは、「キャリア選択Ⅰ（テーマ別実習）」で、自身が深めたいこと、達成したいことなどを明確にして目標達成に向けて取り組み、その実習での実践を「看護研究」で理論をもとに考察しながら、看護観を明確にしてまとめるというものです。

まずは、研究テーマを明確にするために文献検索から始めました。この研究テーマは、キャリア選択Ⅰ（テーマ別実習）のテーマとなるため、自分が研究しようと思う文献を検索し、実習計画書と研究計画書を作成して実習に臨みました。

実習後は論文作成です。実習で実践したことを研究論文にまとめ、発表に向けて抄録・発表原稿・発表資料の作成を行いました。発表当日は臨地実習指導者の皆様にも御出席いただき、温かい講評もいただきました。

発表を終えた学生からは、「実習前にテーマに関わる多くの文献に触れることで、自分が実践したい看護の知識をもって実習に臨むことができた」「自分の実践した看護を根拠づけることができた」「看護の奥深さを実感した」などの声が聞かれました。

臨地実習施設の皆様、このような学びの機会を与えてくださり、また丁寧な指導を頂き、本当にありがとうございました。



看護研究 研究テーマ （一部抜粋）

セルフマネジメントにおける成功体験と自己効力感の関係と必要性

危機的状況にある対象の受容過程を支える看護

地域で暮らす認知症高齢者のその人らしさを尊重したケア

疾患や障害と共に住み慣れた地域で自分らしく生きることを支える看護



研究Ⅰ・Ⅱ

高度専門看護学科では、2年次に看護領域でよく用いられる研究の方法とプロセス・分析方法について学びます。3年次に研究テーマを決め、研究の一連のプロセスを体験し、学内でその成果を発表しています。

2022年度は12グループに分かれて、在校生を対象に質問紙調査票を用いた調査研究を行いました。

3年次の学習を終えた学生からは、「去年までの研究は正直難しいと思ってたけど、今年に入って自分たちの興味のあるものを研究するようになって、グループメンバーにも迷惑をかけないように、研究の授業に真剣に取り組むことができました」「アンケートの分析方法や、思っていた結果と違うかった時にどうしたら良いか分からなかったが、丁寧に教えていただけた」等の意見を聞くことができました。

研究Ⅱ 研究テーマ

蓄積的疲労徴候

看護学生のSNSの利用傾向と承認欲求および情緒的依存の関連について
看護学生のウェルビーイングに影響する因子について

看護学生におけるダイエット行動とメディアの影響

自発的笑いがもたらすリラックス効果について

看護学生の睡眠習慣と食習慣との関連についての研究

月経随伴症状と食事摂取パターン、ストレスの関わりについて

親子間のコミュニケーションが子宮頸がん検診の受診行動の因子となるかの検討

看護学生の睡眠習慣と眠気の関係性について

エナジードリンクと睡眠の関係性

看護学生におけるストレス対処力と睡眠の関係性について

インターネット依存傾向と睡眠との関係性



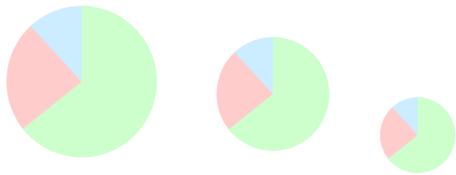
京都女子大学 発達教育学部 教授

岩原昭彦 先生

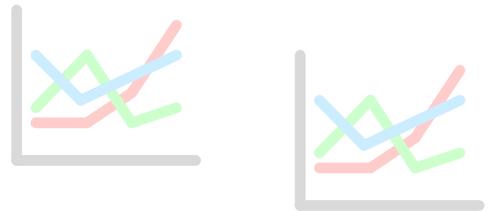
看護・助産学生時代から研究を学ぶ意義

研究を学ぶ意義の一つは、エビデンスに基づいた実践 (EBP) のためだということです。保健・医療の分野におけるEBPとは、様々な治療や支援の効果に関するエビデンスを丁寧に吟味し、対象とする患者に最も適切な治療法や支援法を選択する過程のことです。ある患者が抱える問題に対して支援するためには多

様なエビデンスが必要になります。しかし、一口にエビデンスと言っても、その質は千差万別なので、どれが最良のエビデンスかを判断しなければなりません。ちなみに、エビデンスには段階があり、「私や先輩の経験によれば」とか「某先生の理論によれば」というものは、最も低い水準のエビデンスで、患者を無作為化して複数の治療方法や処理を割り付けて行うような研究デザインに基づいた研究結果が、エビデンスの水準が高いものとして扱われます。研究法の知識がないと、どれが価値のあるエビデンスなのかを判断することもできません。研究法は研究者としてエビデンスを生み出す際に必要となるだけでなく、実践家としてエビデンスを使用する際にも必要となります。科学的な態度をもって実践できるように研究を嫌がらずに学んでください。



助産学科



助産学研究 I

助産学科では、「助産学研究 I (全15回30時間)」という科目の中で、助産学の研究に必要な理論と方法を学んでいます。講義は5月から始まり、学内で発表する1月まで、約9か月間にわたります。

まず、最初に講師より研究の基本的理解として、倫理的配慮と文献検索・検討について教授していただきます。その後、学生たちが興味・関心のある研究テーマのもととなるキーワードを3つ決定し、それぞれにグループを結成し、調査研究活動を行っていきます。

研究を進めていくにあたり大事なことは、多くの先行研究を読み、クリティークすることです。学生たちも先行研究を検索し、たくさん研究論文に触れ、理論的な枠組みを見つけ、仮説を立てます。その後、質問紙を作成し、9月から10月にかけて調査を実施、その結果を集計しデータを解析、考察していきます。あとは、抄録作成、発表原稿作成、プレゼンテーションの準備を整えて(講師の岩原先生、多大なるご指導ご助言、本当にありがとうございました。)1月の学内発表に臨みます。発表当日は、長期間頑張ってきた成果を十分発表し、講評からさらに学びを深めることができていました。

学生たちには、研究活動の必要性を理解し、これからの助産師活動に活かしてもらいたいと思います。

調査にご協力いただきました皆さま、ありがとうございました。



助産学研究 I 発表テーマ

1G	家庭内性教育と自己肯定感の関連性
2G	青年期男性の親子関係と親性準備性について
3G	心理的ウェルビーイングと結婚観の関連

心理的に良好な状態

クリティーク…批判的に論文を吟味すること(あら探しではありません)

助産学研究 II

助産師教育課程では、妊娠中期から産後1か月までの母子を受け持つ継続事例実習が必須です。学生は、実習で受け持ち妊婦さんが出産を経て親になっていく過程を学び、それに対する援助を実践します。

助産学研究 II では、継続事例を事例研究論文としてまとめ、根拠に基づいた助産ケアについて考察し、自己の助産観を明確にしていきます。旧カリキュラムでも事例研究としてまとめていましたが、よりよい助産ケアを探究する力を強化するために科目として独立させました。

前期に事例研究について教授し、文献レビューができるように演習を行いました。研究計画書作成から論文作成までは、継続事例実習担当の教員が指導し、2月の国家試験終了後に1年間の学びの集大成として学内で発表会を行いました。

- 31回生の事例研究のテーマは、
- ・愛着形成・母親役割獲得に関する研究 7題
 - ・母乳育児支援に関する研究 2題
 - ・出産体験に関する研究 6題
 - ・ハイリスク妊婦への支援に関する研究 1題
 - ・育児支援に関する研究 4題
- でした。

学生は、自己の助産ケアを振り返り、自己の助産観をしっかりと表現することができていました。

高度専門看護学科
1 回生

Home Coming Day

本校では、卒業後支援として「ホームカミングデイ」を開催し、卒業した学生が学校に集まり、お互いの近況を伝えあうことで、卒業生同士や教員とのネットワークを広げる機会を設けています。元々は8月に行う予定でしたが、コロナの感染拡大により延期となり、卒業生からの希望もあり、コロナの感染対策をしながら、12月に開催しました。



当日は、2022年の春に卒業した高度専門看護学科の1回生が20人以上参加し、4年間通っていたからこそわかる学校にまつわるクイズを出題しました。クイズ中は「何やったかな。見たことあるのに」と話しながら一生懸命取り組み、学校の写真を出すと「懐かしいな」という声も聞かれ、学生時代の出来事を思い出すきっかけになっていました。また、久しぶりに会う卒業生同士も、「最近はどう？ 慣れた？」などと情報共有する機会にもなっていました。

保護者会

本校では、各学科・各学年ごとに年1回「保護者会」を行っています。新入学生の保護者の方々へは、入学式後に引き続き開催し、学校の設置主体である社会医療法人生長会の理念や、学校の教育方針について説明しています。その後、高度専門看護学科・助産学科に分かれ、各学科の教育課程や学校生活などをお伝えしています。

高度専門看護学科の各学年の保護者会では、学校の動向や各学年に応じた教育内容、学生の様子などをお伝えしています。

また、保護者の方々は、学校HPの保護者専用ページや、学生の出席や成績管理等を行っているwebポータルへのアクセスができるようになっています。

学生の皆さんが看護師・助産師を目指して学習に取り組めるように、今後も保護者の方々と学校の連携を図っていきたく考えています。

講師会

本校の学校教育活動への理解と協力を得る場として、講師の先生方と実習指導者の皆様に向け、『講師会』を年1回開催しています。

2022年度は12月3日に、学校での対面とオンライン両方の、ハイブリッド形式で行いました。

第1部では、学生の動向や、本年度の両学科教育計画などの報告を行いました。第2部では、弁護士の五島洋先生（弁護士法人飛翔法律事務所）をお招きし、『アカデミックハラスメント 現状と対策について』をテーマにご講演いただきました。

ご参加いただいた方々からは、「アカデミックハラスメントについてポイントを教えていただき参考になった」「学生指導時の言葉選びや教育的視点で関わる態度について、改めて考える機会となった」などの感想をいただきました。

編集後記

5号では、2022年4月の入学生から適用となった新カリキュラムの取組みについて紹介させていただきました。本校の新カリキュラム構築にあたり、ご尽力くださいました関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。高度専門看護学科では4年をかけて一通りの新カリキュラムを実施することになりますので、引き続きよろしくお願ひ致します。

そして、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことから、高度専門看護学科開設時から計画しておりました海外研修の実現に向けて準備を進めているところです。次号では海外研修の様子をお伝えできればと考えております。

今後とも本校の教育にご理解ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。
(学校誌委員)

ベルランド看護助産大学校 学校誌 奏

Kanade VOL.05

2023年6月 発行

編集:ベルランド看護助産大学校学校誌編集委員会

発行:専門学校 ベルランド看護助産大学校

〒599-8247 堺市中区東山500-3

TEL:072-234-2004

※学年の表記は、すべて2022年度のもので